

指 導 係

1 指導関係事業

(1) 学校訪問

指導主事が随時訪問し、校長をはじめ教職員と協議懇談することにより、学校の抱える問題点を解明し、指導・助言をした。また、要請により研究会等に出席し、指導・助言を行った。

(2) 研修会

令和5年度は、次の研修会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

ア	校長研修会	1回
イ	副校長研修会	1回
ウ	主幹教諭任用時研修会	1回
エ	主任教諭任用時研修会	1回
オ	福生市教員悉皆研修会（キャリア教育）	1回
カ	教育研究会研修会（24部会）	11回
キ	中堅教諭等資質向上研修会	8回
ク	初任者研修会	12回
ケ	2年次教諭研修会	4回
コ	3年次教諭研修会	3回
サ	4年次教諭授業観察（研修会）	1回
シ	服務事故防止研修会	1回
ス	英語教育研修会（小・中）	2回
セ	特別支援教育コーディネーター研修会	2回
ソ	日本語学級担当教員研修会	2回
タ	特別支援教室担任研修会	2回
チ	特別支援学級担当研修会	2回
ツ	学校マネジメント講座	1回
テ	スクールカウンセラー研修会	3回

(3) オーケストラ鑑賞教室

市立小・中学校児童・生徒を対象としたオーケストラ鑑賞教室を、市民会館において開催した。

(4) 教育研究奨励、教育課題等研究委託

教育研究を奨励するとともに教育研究を委託し、教職員の使命の自覚を促すとともに、資質の向上を図った。

ア 教育研究奨励校 2校

学 校	研 究 主 題
五小（2年次）	自他の生命を尊重し、安全に生活できる児童の育成 ～学校・家庭・地域が一体となった防災意識と実践力の向上を目指して～
六小（1年次）	自ら学びに向かい、確かな学力を身に付けようとする児童の育成 ～授業と家庭学習の往還を通して～

イ 教育課題等研究校 8校

学 校	研 究 主 題
一 小	自分の考えをもち、すすんで話し合い、考えを深める児童の育成 ～算数科における、自力解決から比較・検討の場面の指導の工夫～

二 小	深く学び よく考える子の育成のあり方について ～ 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業づくりを通して～
三 小	主体的・対話的で深い学びの実現 ～ 国語科の授業改善を通して～
四 小	自ら積極的に学び、問題解決能力を發揮する児童の育成 ～ 読み解く活動を通して、自分の考えをもつ～
七 小	多様性を認め合い、高め合う児童の育成 ～ 学力の基盤を育む道德教育の推進～
一 中	学習を自己調整し、主体的に学ぶ生徒の育成 ～ I C T の活用や共同学習を通して～
二 中	一人一人が夢や希望をもって生活する学校づくり ～ 生徒が活躍できる「仕掛け」の工夫～
三 中	「考え、議論する道德」の授業実践 ～ 指導方法の工夫を通して～

ウ 教育課題等研究（団体）

団 体	研 究 主 題
校 長 会	幼保小の円滑な接続と小中一貫教育の充実を目指して ～ 中学校区の教育力の向上を図る取組を通して～
副校長会	「幼保小連携及び小中一貫教育推進に向けての副校長の役割」

（５） 特別支援教育の推進

特別支援学級の児童・生徒の安全管理及び学習指導等の充実を図るために指導補助員を配置するほか、教員向けの特別支援教育研修会等を開催し、教員の特別支援教育に関する理解を深め、指導力の向上を図った。

（６） 各種指導補助員等配置事業

小・中学校に各種指導補助員等を配置して、児童・生徒の指導補助等を行った。

事 業 名	人 数(人)	配置時間(時間)
夏季休業中水泳指導補助員	38	446
小学校水泳指導補助員	42	484
日本語適応支援員（技能指導講師）	10	723
学習指導市民講師	45	45
特別支援学級等指導補助員	23	6,683
スクールアシスタントティーチャー	71	18,436

（７） 英語教育指導助手事業

福生市英語教育推進計画に基づき、中学校全校に外国人英語教育指導助手(A L T)を配置し、中学校英語科の授業における補助を行った。また、各小学校にも随時A L Tが巡回し、小学校第5・6学年の英語科の授業及び小学校の第1学年から第4学年の外国語活動等における補助を行った。

指導日数：1,033日

（８） 理数教育推進事業

小学校第5・6学年、中学校全学年に理科支援員を配置し、理科授業の実験、授業等の補助を行った。

人 員：14名

活動時間：743時間

(9) 学校と家庭の連携推進事業

いじめ、不登校、暴力行為など生活指導上の課題に対応するため、小・中学校全校に「家庭と子どもの支援員」及び「スーパーバイザー」を配置した。

ア 家庭と子どもの支援員

人 員：29名

活動時間：2,668時間

イ スーパーバイザー

人 員：7名

活動時間：19時間

(10) 部活動外部指導者配置支援事業

中学校の部活動に外部指導者を配置することで、専門的な技術指導等による部活動の質の向上と教員の負担軽減を行った。

人 員：28名

配置回数：1,147回

(11) 校内別室指導支援員配置事業

不登校及び不登校傾向の児童・生徒が安心して、自己存在感や充実感を感じられる教室以外の居場所に支援員を配置し、児童・生徒一人一人の状況に応じた支援を行った。

(配置校(令和5年度から2年間))

：福生第六小学校、福生第一中学校、福生第二中学校、福生第三中学校)

人 員：44名

活動時間：7,692時間

(12) 英語教育推進事業

「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」の4技能を測定できる英語四技能検定を中学校第3学年全生徒が公費で受験し、生徒の英語力向上と教員の指導力向上を図った。

小学校第5学年児童及び中学校第2学年生徒全員を対象に「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」において実施している英語教育の体験型プログラムに参加した。

体験型プログラム参加人数：小学校第5学年 319人

中学校第2学年 288人

(13) 福生市学力・学習状況調査(学力診断テスト委託)

一人一人の児童・生徒の学力を継続的に測るため、小学校第2学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象とした学力・学習状況調査を実施した。

(14) 市立学校ICT環境整備

校務系端末及び一人1台端末iPadについて、各種機器に関するヘルプデスク保守委託を締結し、より安定した運用を図った。また、各学校のホームページ運用にクラウド方式のサービスを導入し、情報発信の強化を図った。

(15) 就学前教育と小学校教育の一層の充実に関する研究指定地区事業

市内保育園・幼稚園等において、慶應義塾大学における保育環境調査等の結果を踏まえた保育・

教育活動に関する実践的研究を行い、研究成果を就学前教育と小学校教育の円滑な接続に反映させた。

(16) 授業改善推進拠点校事業

福生第六小学校が東京都教育委員会「授業改善推進拠点校」の指定を受け、児童の学力向上を図るため、学習状況調査等の各種調査を行った。

(17) 体育健康教育推進校事業

福生第一中学校が東京都教育委員会「体育健康教育推進校」の指定を受け、運動やスポーツを通じた多様な関わりを通して、健康で活気に満ちた生活をデザインする資質や能力を育成するため、効果的な体育健康教育を実践的に研究・実践した。

(18) 笑顔と学びの体験活動プロジェクト

文化、運動、科学、協働学習など、児童・生徒が自らの感覚や行為により実感、体感する多様な体験機会を通じて、児童・生徒の積極性や協調性、コミュニケーション力、他者理解、興味・関心、感性など、豊かな心の育みにつながるよう、学校における体験活動の充実を図った。

(19) 安全教育推進校事業

福生第五小学校が東京都教育委員会「安全教育推進校」の指定を受け、安全に関する授業を実施した。保護者や地域人材の協力を得て、実生活に生かすための助言を受けることで、災害発生時に地域の一員としてできることを考えるなど、防災意識の向上を図った。

(20) 不登校児童・生徒支援調査研究事業

福生第二中学校が東京都教育委員会「不登校児童・生徒支援調査研究事業指定校」の指定を受け、新たな不登校を生まない魅力ある学校づくりの研究を行った。

(21) 令和における福生市立学校の在り方検討委員会

福生市教育委員会が、教育課題の解決や、学校教育に対する市民の思いや願いの実現という観点から、今後の福生市立学校の在り方等の検討を行うため、令和5年度「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」を設置した。

ア 開催回数 5回

イ 令和5年度メインテーマ

- ・コミュニティ・スクールの充実
- ・不登校対策（支援の充実）
- ・部活動の地域連携・地域移行

ウ 委員構成

委員長	学識経験者 1人
委員	市立小中学校の校長 10人 市立小中学校のPTA関係者 1人 福生市町会長協議会の代表者 1人 福生市立学校学校運営協議会委員 3人 市内の幼稚園長 1人 市内の保育園長 1人 福生市民生委員・児童委員協議会の代表者 1人 市職員 1人